



## 今月の農家さん

### 無理せず慣れていく

野洲市高木  
小森 喜一さん (59才)



奥様と2人で、水稻や小麦、大豆などを育てている小森さん。

元々は自動車修理の仕事をしたがらの兼業農家でしたが、13年ほど前に近隣の農家さんから田んぼを預かった事がきっかけで、農業に専念するようになったそうです。

「専業農家になって最初の3年ほどは仕事に慣れず、アルバイトでしのいだ事もありました。でも、周りの農家さんやJAのサポートのおかげで、仕事を軌道に乗せる事が出来ました」と小森さんは当

時をふりかえります。

今では17ha以上の田んぼを管理するようになり、少しずつ作付時期をずらす事で作業する時期が片寄らないよう工夫したり、機械や一発肥料など便利な物をどんどん取り入れて省力化したりと、農作業の効率化に力を注いでおられます。

最後に小森さんは、これから農業を始める人に向けて「農業は計画通りにいかない事も多いです。最初は無理せず、慣れてから事業を拡大する事が、長続きのコツですよ」とエールをおくりました。

## 営農情報

### ◆品質向上のために 中干しを徹底しましょう！

中干しとは、田んぼから水が落ちて乾かす事で、稲の根張りを強くする効果や過剰分けてを防ぐ効果があります。良く根が張った稲は、倒伏しにくく、登熟期の高温に強く耐えます。過剰な分けつを防ぐ事は、稲穂へ栄養を誘導する効果があり、乳白米の減少や粒径の確保など米の品質向上につながります。

### ◆こんな効果も！

中干しをする事で、田んぼの水はけがよくなり、間断灌漑や落水などの水管理が行いやすくなります。これにより収穫前の落水時期を遅くできるので、胴割れ米を防ぐ効果も期待できます。

また、中干しにより、落水後に地面が乾きやすくなるので、収穫期にはコンバイン作業が円滑になります。水稻収穫後に麦などを育てる場合にも有効です。

田んぼに水を張り続けていると土壌中の酸素が少なくなると、温室効果ガスであるメタン

が発生しやすくなります。中干しをして酸素を送る事は、ガス発生を防ぎ、温暖化を抑制する効果もあるのです。

### ◆中干しの進め方

中干しを始める時期は、稲の茎の数を見て決めます。左表を参考に、目標茎数の8割が確保できた頃が目安です。

7～10日間、地面に浅い亀裂が生じる程度まで続け、再度入水しましょう。あまりに乾燥させすぎて、深い亀裂が発生すると、稲の根を傷付けてしまうので注意してください。

また、中干しを行う際には、ほ場の中と外周に溝切りをする、水管理がスムーズになり、入水や落水が簡単になります。

坪当たり株数	目標茎数	中干しを始める時期
60株/坪	17～18本	15本前後
50株/坪	20～21本	18本前後

高品質なお米を作るための確かな技術なので、中干しをぜひ実践していきましょう。